

利未記

第一〇章

○神はイスラエルの前に於て、祭司たる者が不遜無作法なる態度をなすを傍視する能はざりしなり。

アロン及エレアザル、イタマル等は此出来事を悲しみと雖も髪をそり衣を裂く等、其悲しみを外面に表すことを許されなかつた。其理由はイスラエルの前に膏を注がれたる者なれば、神の罰し給ひしことを神の使者たる彼等がたとへ骨肉たりとも哀哭したとあつては祭司たる任務に叶はざることである故に、其屍を墓に運ぶことすら許されなかつた。すべてを親戚の者のなすところにまかせた。而して飲酒を禁ずる戒が彼等に与へられた。故にナダブとアビフの過失は飲酒の結果なりしことがわかる。

○ユダヤ人の英雄とは皆信仰的の英雄であつた。

神を信じたるが故に強くあつた。